

## 町内各所でトライやる・ウィーク

6月2日(月)から6日(金)の5日間、98事業所において播磨中学校、播磨南中学校両校の2年生、386人がトライやる・ウィークに参加しました。



▲「のり」について取材

このトライやる・ウィークは、中学生が地域や自然の中で主体性を発揮してさまざまな活動や体験をすることで、豊かな感性や創造性を高め

たり、自分なりの生き方を見つけるよう支援する、「心の教育」として、定着しています。

県漁連のり流通センターで活動する生徒に感想を聞くと、「学校では体験できないことばかり。働くのは大変だと分かった」と話し、またあえの里デイサービスセンターで活動する生徒は、「言葉遣いがいつもと違つので大変。でも、みんなが楽しそうなのが印象的」と話してくれました。

## 子育てファミリー運動会開催

6月1日(日)、総合体育館で子育てファミリー運動会が行われ、親子ら約450人が参加しました。



▲「もっと速く〜」

運動会は0〜3歳の子どもとその家族が対象。最初に「変身パレード」が行われ、テレビアニメの人気キャラクターや映画の主人公などにふんじた親子が会場内を行進すると、会場の盛り上がりはいきなり最高潮に。そのあと「はいはい大会」や「お魚と遊ぼう」などの競技が行われ、終始、明るい笑顔がいっぱいでした。そして最後は全員で「サンサンたいそつ」をして閉会しました。

## 赤米田植えで古代体験

6月1日(日)、大中国古代の村(大中遺跡)で古代の米「赤米」の田植えが行われ、親子ら約30人が参加しました。

子どもたちは、5月24日(土)に作った「貫頭衣」を着て田植えを行い、身も心も弥生人になっていました。

参加したある

子どもは、「赤米がどんな味なのか楽しみ。早く食べてみたいです。」と収穫の秋に思いを馳せていました。



▲気分は弥生人!!

## 町内各所で田植え

### 播磨中央保育園児が田植えに挑戦

6月5日(木)、播磨中央保育園の園児たちが田植えに挑戦しました。

初めは田んぼに入るのに少し緊張気味でしたが、トライやる・ウィークで来ていた中学生のお姉さんに連れられて、そろそろと田んぼの中へ。初めての感触に大騒ぎの子どもたちで



▲おもしろかったよ!!  
したが、慣れてきて泥を付け合ったりする子どももおり、みんな大騒ぎで田植えを体験しました。

## 花と盆栽展に122点の力作並ぶ

「第26回花と盆栽展」(播磨町花と緑の協会主催)が5月31日(土)、6月1日(日)の両日、中央公民館大ホールで開かれました。

今回は、寄せ植え、山野草、盆栽、さつきなど122点を展示し、見事な根張りや枝ぶりが訪れた人の目を楽しませていました。

各部門の入賞者は次の通り。

(敬称略)

□さつきの部 1位 広瀬昭生(野添)

夫(古宮)

2位 田中幾夫(古宮) 3位 藤原美(野添)

□山野草の部 1位 高田美智子(宮西) 2位 仁井洋子(南大中) 3位 松本良吉(宮北)

□寄せ植えの部 1位 近藤サエ子(古田) 2位 福本久子(古田) 3位 武田孝代(北本荘)

□盆栽の部 1位 柏木武司(二子) 2位 田中茂子(古宮) 3位 山口一夫(古宮)

## 「お見事！ 薬師寺西塔」

レポーター 米谷 美代子さん

「見事です！ ね」とため息が出ました。玄關に飾られた五重の塔の美しさは、本当に見事で圧巻です。

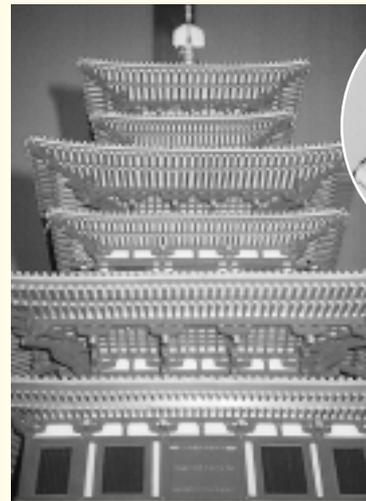
宮の裏にお住まいの孝橋 保男さんは、薬師寺西塔の五重の塔を現寸大の50分の1の大きさで、すべて手作りされました。

制作するきっかけは「蘇える薬師寺西塔」という本でした。この本には、天平時代に建立されたが、長い戦乱の中で焼失した西塔を、昭和の時代に当時の建築方法で再建する工程が書かれています。

そして孝橋さんは五重の塔の美しさに興味を持ち、史料をもとに作り始めたそうです。

材料は厚さ1ミリのプラスチック板。屋根には、この板を5ミリ角に切りそろえ、これを1万5千枚、一つ一つ接着する。扉の飾り金具は、虫ピン先の先をさらに細かく削る。塔の頂上にそびえたつ宝珠まで手作りという精密さです。完成まで2年かかったそうです。

現在、役場1階情報コーナーに孝橋さんが紙で手作りされた、蓬生庵の模型が陳列されていますので是非ご覧くだらう。



▲孝橋 保男さん

◀すべてが手作りの五重の塔です

先月号のまちかど広報員レポート「ご存じですか？ セメント彫刻」の中で一部表記に誤りがありました。まちかど広報員さんをはじめ、皆さまにお詫言ひ申し上げます。

## いい汗流して、身体を動かそう

レポーター 門倉 敏子さん



◀これからもずっと金メダルで

チャレンジデーの5月28日(水)は、町内各地域で早朝から散歩や体操で始まりました。

6月1日オープンのはりまシーサイドドームでは、電気系統の最終点検が行われていましたが、一足先にテニスとゲートボールを楽しむグループが、チャレンジデーに参加していました。

グラウンドは砂入り人工芝、天井も高くライトが直接目に入らないように、間接照明を採用しています。壁は四面ともガラス張り窓を開けると心地よい風が流れ、また暑い日差しを受けることもなく、快適にスポーツを楽しむことができました。

チャレンジデーの結果は、初参加にもかかわらず参加率70%以上で金メダルを獲得しました。

健康な心身を維持するには、普段から軽い運動を続けることが必要ということを実感した一日でした。

## 播磨町の特産物 “のり”

レポーター 小原 優人くん・西田 圭祐くん・猪木 孝太くん

トライ・やる

中学生が取材しました！



▲おいしそうな“のり”でした

兵庫県の特産物である「のり」は、1年で約18億枚出荷されています。今年、播磨町では、そのうちの約4、680万枚を生産、出荷しています。

古宮にあるのり流通センターの工場に入ると、すぐにのりの匂いがして驚きました。ここでは、のりも腐るので、衛生に気をつけています。

のりを作るまでに、まず、採ってきたのりを乾燥させます。乾燥させるとのりの水分が約10%から約3%になります。そうすることにより、密封した状態であれば3年間はもつようになります。次に色や味をよくするために、のりを焼きまします。焼いたのりは黒い色から緑色になります。

また、のりの包み方にもコツがあります。のりを束ね、結びときの結び目を三角にします。結び目をだんご結びにすると、重ねて入れたときに、結び目の部分だけが高くなり、かたがつくからです。

こうして各地で作られ出荷されていくのりの量は、兵庫県が日本一なのです。

工場の人にも話を聞いてみました。みなさんは「立っているのしんどい、疲れる」と大変さなどを話してくれたのと同時に、「みんなでいっしょに働くのが楽しい」など仕事に対する喜びも話してくれました。

トライやるウィークで働きにきている中学生たちに話を聞くと、「しんどいけど、楽しさ」「けっこう、面白く」と話してくれました。

どうですみなさん、この「兵庫県ののり」が食べたくなってきただけじゃあう。